
同窓会だより

平成11年度同窓会総会報告

副会長 本間 信 策

日時 平成11年4月17日(土)

午後12時30分～

会場 新潟大学歯学部第一講義室

今年も例年より暖冬のせい、歯学部駐車場脇のみごとなそめいよしのも散り始めていました。

新潟大学歯学部同窓会の平成10年度総会が、県支部総会に引き続き、上記日時、会場で開催されました。出席は40数名で、本間裕先生が議長を担当しました。

2年目に入る神田正一会長より挨拶があり、なにかと厳しい時世ではありますがよろしくご協力願いたい旨、話がありました。会費納入率が落ちてきていることへの対応、学部長・病院長が交替した大学歯学部との調整、新しく予定されている同窓会支部への学術講演会講師派遣事業、会費の自動振替システム導入、代診紹介窓口設置、また平成11年秋に当番が当たっている国歯協の準備、それに神田会長が特に力をいれている初めての支部長会議開催などについて説明・協議がなされました。

午後3時から同窓会主催の学術講演会があり、歯科薬理学講座川島博之教授より「肥満の予防・治療は可能か」という演題で、最新の研究の話がありました。皆さん関心のある内容なので、たくさんの質問も出、盛況でした。

また午後5時より大会議室で、3,000円会費の懇親会を催し、懐かしい顔ぶれの参加もありました。

肥満の予防・治療は可能か？

歯科薬理学講座教授 川島 博行先生の講演を聞いて

歯科補綴学第一講座大学院1年

村田 はるか(29期生)

平成11年4月17日に新潟大学歯学部大講堂において、新潟大学歯学部同窓会主催の学術講演が催されました。掲示板で興味を引かれ、参加する機会を得たため、感想を書かせていただきます。最近の健康志向の高まりや、ダイエットブームなどからも、肥満に関しては男女、年齢に関わらず興味をひくトピックスであるでしょう。肥満の予防という題目から、この講演を聞くと肥満にならない方法がわかるのか？と甘い期待を軽く抱いていました。とくに、最近テレビ番組で肥満に関する遺伝子や、ある年齢までの脂肪細胞数がその人の一生の肥満度を左右するというものについてとりあげていたのも、これらは本当のところどうか大変興味がありました。

講演の内容は、食事をした際、脳では視床下部の満腹中枢にその情報が伝達され食欲が抑えられますが、これらの指令を伝えるレプチンという物質と、レプチンのメッセージが伝えられるためのステップと段階毎の障害について述べられました。レプチンは脂肪細胞により産生されるため、重篤な肥満では、脂肪細胞により産生されなかったり、レプチンと結合する視床下部の受容体が活性を失っていることがわかっているそうです。1番私の興味を引いたのは、このステップの外因性の制御機能の破綻にストレスが関与しているのではないかということでした。満腹中枢が満たされることがないために、まるまる太ったマウスのスライドを見て、なにかとストレスを感じる現代人にその姿が重なり恐いなと感じてしまいました。

今は飽食の時代。いつでも、自分の好きなもの

が好きなだけ食べられます。でもその一方で、大切な栄養を適量に的確に摂ることが難しくなっていると思います。楽しみながら、よく嚼んで味わって食事することが肥満を防ぐらしい、と言う話もありますが、もともと遺伝的にレプチンや視床下部の受容体に異常のある人や、ストレスなどによりこれらが破綻してしまった場合はこれらの研究が臨床応用されると有効かもしれません。

最後に、臨床と違い、基礎の研究は一見地味ですが、時代を越えて未来の人々を救う可能性を秘めている分おもしろそうだな、と痛感しました。大学院1年目で臨床も研究も未知で不安がいっぱいですが、いつか何らかの形で人に役立つ仕事ができるようになりたいと改めて思いました。意外と基礎の先生方の研究は同じ学内にいながら存知上げないことも多いのでこのような機会がもてたことは大変勉強になり感謝しております。今後もこのような催しに積極的に参加してゆきたいです。

第1回 新潟大学歯学部同窓会 支部長会議開催される

副会長 神保陸郎

平成11年5月29日(土)午後2時より、新潟大学歯学部大会議室に於いて13支部中、9支部長(一部代理)及び同窓会本部 会長以下三役、担当理事、監事、12名出席のもと標記支部長会議が開催された。

本間信策(副会長)の議長により会議が進められた。

会長挨拶(神田正一)

多忙の中、各支部又は各自の経費負担で参加していただき心苦しい所であります。

現在1,562名の同窓会員がおり、本年度は29期生が卒業しました。同窓生には年齢差が出来てきました。

同窓会々費納入率低下、緊急時・代診派遣制度など問題も色々出てきております。

また新潟大学自身も社会的な波に晒されております。

学生達にあっても各支部の情報を知りたがっております。

この会議が実りあるものになりますようお願いしたい。

報告

1) 同窓会本部の各理事より事業活動の報告、説明あり。

2) 各支部活動の報告、説明

支部では総会と学術講演会の年2回の集会、会費は年1万円~5千円が多く支部の会員数は新潟の264名は別として60数名から20数名。

問題点として会費徴収と県域が広い又は、二県以上にまたがる支部は結束と活動に苦勞がある。

協議

1) 同窓会支部へ学術講演講師派遣について

新潟県支部での定期セミナーの活動の蓄積があり(S62~H11の資料配布)講師等を活用して欲しい。

2) 代診紹介システムについて

検討委員会をつくった。

3) 同窓会費納入率低下について

以前は80%、近年は70%を切る。

平成12年より郵便貯金からの自動引き落としとしたい(当面は現行との二本だてになりそう)各支部に御協力をお願いしたい。

4) 今後の支部長会議について

今回は初めてであったが、次回開催するなら費用・時間・場所が検討項目。

5) その他

新入生の県別データが欲しい。.....可能

開業時は支部長に連絡して欲しい。

.....学生との連絡アドバイスの会はあるが個々の意向の捕捉は不可能。

新潟大学歯学部の近況について

花田晃治(歯学部長)

行政改革の中で国立大学の存在価値が見直されている。(すなわち大学の淘汰)

本学歯学部も存亡をかけて講座の改組等、検討

努力している。

新潟大学歯学部附属病院の近況について

河野正司(病院長)

国民のニーズに大学附属病院が応えているか問われている。

採算、受診率、も大切に教育機関(卒前・卒後、大学院公開講座、住民教育)

高度先進、基幹病院の役割を果たし、開業医と有機的に連携して行きたい。

病院の再編成.....患者中心に動くシステム

教育病院の性格.....総合診療室の拡充、をめざす。

第41回全国歯科大学同窓・校友会懇話会に出席して

会長 神田正一

第41回全国歯科大学同窓・校友会懇話会が、東京医科歯科大学歯科同窓会の主催により、東京、帝国ホテルにて開催されました。多和田専務理事と共に、雨の降りしきる中会場につき、早速会議に臨みました。開会の言葉に続き、来賓挨拶となり、日歯会長中原爽先生が本会議の意義そして時局問題についてお話されました。その後「21世紀の健康戦略」と題して、星旦二先生、川淵孝一先生2名の講師による特別講演が行われました。二題とも医療というものをマクロにそして経済的視野に立っての興味深い講演であり、その後のディスカッションにおいても、我々歯科界の将来についての質問等、活発な意見交換が行われました。会議の後、懇親会があり、各大学の役員の方々とそれぞれの大学の様子や同窓会の状況などを聞く良い機会となりました。

全国歯科大学同窓・校友会懇話会式次第

日時:平成11年7月3日(土)午後2時~5時30分

場所:帝国ホテル

司会:東京医科歯科大学歯科同窓会専務理事

兵頭英昭

1. 開会のことば

東京医科歯科大学歯科同窓会副会長

志村長広

2. 当番校会長挨拶

東京医科歯科大学歯科同窓会会長

柴田嘉則

3. 来賓紹介

4. 出席者紹介

5. 来賓挨拶

日本歯科医師会会長

中原 爽

参議院議員

大島慶久

東京医科歯科大学学長

鈴木章夫

東京都歯科医師会会長

西村 誠

6. 全歯懇会議

特別講演「21世紀の健康戦略」

講師 東京都立大学大学院教授 星 旦二

講師 日本福祉大学教授 川淵孝一

ディスカッション

座長 東京医科歯科大学歯科同窓会理事

矢沢正人

7. 協議

議長選出

(1) 次々期当番校選出

(2) その他

8. 次期当番校挨拶 神奈川歯科大学同窓会

9. 閉会のことば

東京医科歯科大学歯科同窓会副会長

広井清智

特別講演について

1. 講師 星 旦二先生

- 北欧の歯科保健対策から学べること -

数多くのデータを基に、まず健康と医療のかかり度について述べられ、健康は、・日常生活習慣、・自然環境、・遺伝、等に大きく関連し、医療の貢献は10%程度であると鋭く指摘され、個々人の気の持ちようが大きいと話されました。又、日本の医療制度は病気を治すほど収入が減るようになっており、将来は、より情報公開を行い地域

責任制や登録医制を考えて行く必要があるとのことでした。そして、歯科医療の展望として、

- ・国立研究所の設立
- ・歯科の位置付けのアップ
- ・予防効果の提示
- ・発想の転換

等を上げられ、現在のままの歯科保険制度ではだめで、大きな発想の転換が必要であることを強調されました。

2. 講師 川淵孝一先生

医療を経済学の視野から見詰め、国と医療のかかりについて述べられました。

- ・日本の医療制度改革が迷走を続けている理由
- ・効率性と公正性のバランス
- ・医療給付の範囲と優先順位 - 少子高齢化対策、健康投資政策、医療産業政策

以上のようなテーマでお話しになり、時代の大きな変化の中にあり、歯科医療は根本的に体質の変換を迫られ、患者との関係を「削って詰めて幾ら」というような治療中心から、長期的に口腔の健康を守り育てるというものへと変えて行く必要があることを力説されました。

2題ともマクロな健康に関する医療のかかりについてであり、医療現場にいる我々にもこうした視野が必要であることを痛感させられました。

平成11年度新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会に出席して

専務理事 多和田 孝 雄

日時:平成11年7月4日(日)

午前9時15分～午後12時15分

会場:東京都「メトロポリタンプラザ」

当番校:北海道大学歯学部同窓会

第41回全歯懇が開催された翌日に平成11年度春の国歯協が北海道大学歯学部同窓会の主催で開催されました。前日の梅雨空とは打って変わった日

本晴れの日でした。各地から10校27名の参加があり、3時間の予定を大きく延長して、熱の籠った講演と協議がもたれました。我が同窓会からは神田会長、深町総務理事と私の3名が出席しました。

当番校である北海道大学歯学部同窓会の小山田哲会長の挨拶の後、出席者の自己紹介、鶴見大学歯学部の宮武光吉教授の講演、各協議事項の討議へと会次第が進められました。

1. 講演「歯科医師の供給と需要をめぐって」

昭和59年に設置された将来の歯科医師需給に関する検討委員会の提言に基づき、平成7年を目途に全国の歯科大学・歯学部において、入学定員の削減が行われ、削減率は平成6年において19.7%に達した。しかし、その後実施された平成9年度厚生科学研究班「歯科医師需給の予測に関する研究」(主任研究者:森本基・日本大学研究所教授)によると平成37年には9千～1万8千人程度の歯科医師の過剰が見込まれると推計された。

そのような状況に陥った場合、歯科医療の質の低下、良質な歯科医療提供に関わらないサービス競争及び過剰診療を惹起する危険性が否定できない。また、歯科医師の過剰は歯科医療費及び国民負担の増加に影響を与え、加えて、職業としての歯科医師の魅力の低下が懸念される。その為、歯科医師数の適正化の為の施策が必要となるが、単に入学定員の削減のみで調整を行った場合、平成37年以降においては逆に歯科医師の供給不足を来すことになる。そこで、臨床研修の必修化及び高齢歯科医師の稼働停止等を組み合わせた幅広い対応が必要となる。因みに、70歳以上の歯科医師が稼働を停止した場合の削減効果は平成37年において12%を上回り、さらに臨床研修1年必修化、歯科医師国家試験の見直し及び入学定員の10%程度の削減等を併せて行えば、平成42年頃には供給歯科医師数と需要歯科医師数は概ね均衡がとれると推計している。その他併せて進められるべき施策としては、歯科診療所の地域偏在の是正、かかりつけ歯科医機能の普及と定着、基礎歯学の充実による研究者の増加及び国際協力の推進による海外

勤務歯科医の養成等が考えられる。

2. 協議

1) 同窓会の会議開催場所について

事前に集計されたアンケートのまとめによるとほとんどの同窓会は各種会議を学内の会議室で開催している。中には地元の歯科医師会館を利用している同窓会もあるが大阪大学歯学部同窓会は自前の記念会館において会議を開催している。

事務局は多くの同窓会が役員の所属する講座内にもっており、同窓会室すら有るところは少ないようである。

唯一同窓会館を有する大阪大学歯学部同窓会長の話によれば、会館建築当時の会員数は1,000名程度であり、1名当たり30万円の募金を募ったとのことである。この会館建設成功の背景としては活気のある学術事業の発展が第一の要因であり、学部との関係や当時の歯科医師の所得水準が共に良好であったことも幸いしたと述べている。会館は国有地内の建築物であることから大学に寄贈という形をとっており年間使用料は100万円とのことである。

その他の同窓会においては国有施設内ということで同窓会室はもとより、専用電話の1台も置けないという状況のところが多い。

2) 次々回以降の当番校について

岡山大学歯学部同窓会に決定

3. 次期当番校

新潟大学歯学部同窓会

1999年度「歯学部6年生進路相談会・懇親会」

渉外理事 鈴木 一郎

7月16日(金)に歯学部大会議室で歯学部6年生に対する進路相談会・懇親会を開催した。今年は51名中39名と例年になく多数の学生の参加があり、同窓会側からは、三役・県支部・渉外理事・その他の学内理事など11名が出席した。毎年、私(渉外理事)と泉・新美広報理事が準備を担当する



袖山氏のアドバイス

ため、学生の中には口腔外科の勧誘宴会と勘違いする向きもあるようだが、れっきとした同窓会のメインイベントである。

これも不況のせい、同窓会もこのところ財政難で事業計画の見なおしをおこなっているが、単なる飲み会といってしまうとそれまでのこの学生との懇親会は最優先事業と位置付けて存続させている。歯科界も歯学部もそして歯学部同窓会も学生がいなければ先はない。

さて、長谷川渉外理事の司会進行により、同窓会三役からは挨拶と同窓会組織の説明、そして最近の歯科開業の状況などについても言及した。この会は今年で10回目を数えるが、ここ数年は若手の同窓開業医一人をこちらから指名させていただき、学生へのアドバイスをお願いしている。今年は19期生の袖山敬央氏にその役をお願いした。袖山氏は卒業後第二保存に入局され、現在は巻町にて開業されている。学部、医局、開業と時を追ってご自身の歩みを語っていただいた。そして、本間副会長の乾杯の発声により待望の生ビールによる懇親会へと移った。

最終学年の学生にとって、夏休み前は卒業後の進路に最も悩み深い時期である。以前は、「世間の水はそんなに甘くないよ、大学でしっかり勉強して世の中にでなさい」で済んだ話も、このところは歯科をとりまく状況が毎年大きく変わり、安易なアドバイスはできない。歯科医師需給問題に関連して国試制度の改革がささやかれたり、あるいは研修医義務化が目前に迫るなど、卒業前の学生にとって不安は多い。特に研修医制度については



懇談会の模様

義務化に向けて各大学でてんでばらばらな研修システムが試行されており学生はとまどっている。病院歯科の研修医制度が彼らに魅力的に映るのも無理はない。ともかく大学の研修医制度の整備は急務であると感じた。

今年は久々の夏らしい夏で、この日も実にビール日和であった。ビール調達は新美理事の腕のみせどころであるが、今年は長年の経験から足りず余らずのピツタリお見事であった。写真をご覧ください。ただわかるとおり、この学年は男女ちょうど半々である。そのせいかな？ いつになく懇親会は長時間に及び、同窓会諸氏はいささかお疲れの様子で帰途につかれたようであったが、学生は夏休みの開放感を存分に味わって古町へと流れていった。

平成11年度教授会との定期協議会

渉外理事 藤 巻 哲

日 時 平成11年7月28日

午後7:05～9:30

場 所 しまや

出席者 教授会 花田歯学部長 河野病院長

山田教授 野村教授

同窓会 神田会長 本間副会長

多和田専務 藤巻渉外理事

神田会長 挨拶

同窓会の支部長会議というものを今年開催し、

その際に学部長、病院長からも出席していただき、大学の現状等のお話を伺い、同窓会としても協力できることがあるなら是非協力していきたい。

また同窓生も、卒業期の早い人たちは高齢になり、自分のからだのことが心配になってきており、「もし自分が入院したら…」ということを考えなくてはならない時期になっている。そのような時にできれば自分の出身校から代診が来てもらえればと思っているので、その際には協力していただきたい。

全歯懇で同窓会館の話があり、我々も一時そのような話が出たが、バブル経済の崩壊とともにその話も立ち消えになってしまっている。が、またそのような話が出てくるような際には、学部にも是非協力していただきたい、という旨の挨拶があった。

花田歯学部長 挨拶

我々は新潟大学歯学部が新潟になればいけない必要性ということについて答えを出す必要がある。そのためには、地域に貢献できることならなんでもやっていきたい。という旨の挨拶があった。

河野病院長が急患で少し遅れるため、山田教授から乾杯の音頭をとっていただいて宴会に入った。

花田教授

医科歯科大学の学部改革の話で、大学院大学への移行、教授の任期性などの話が出ているが、新大でも文系の学部では任期制で教官が来ている（但し、医、歯学部では今のところはないけれど...）。新大でも全学の教官の業績をしるした本が出ている。

学部の改組として社会歯科、機能学、形態学などと大きく分け、従来の講座性縦割り教育からの脱却をはかる必要があることを話された。

野村教授

在宅寝たきり者訪問診療について...新大病院としては、在宅寝たきり者を新大病院へ搬送、入院してもらい、治療をしていきたい。その際の入退院時の搬送の手段、費用負担についてどうすれば良いかという質問がなされた。

河野教授 挨拶

病院改革の中期目標について学内での検討会が今月あったが、具体的には院内を改組して総合診療室を総合診療部に格上げし、その際にできれば教授をもってきたい旨の話がなされた。

また現在12ある診療科も、4つぐらいにまとめていきたいとの話がなされた。

花田教授より

歯学部病院の玄関前などに卒業生の名前の入ったプレートをつけてはどうだろうかとの提案がなされた。

「学部としては大学でこれだけの人達を輩出してきたということをアピールできるし、同窓会としても是非検討していただきたい」と話された。

多和田専務より

代診派遣事業のシステムが出来上り、スタートしていくことを同窓会員全員に知らせるので大学病院の窓口として河野病院長になってもらい、同窓会側の窓口として渉外の鈴木一郎先生になってもらったらどうかという話が出た。

学会開催の際に、同窓会に援助金の依頼がかかるが同窓会としては会計にそれほど余裕があるわけではないので歯科医学会の分科会に限らしてもらいたいという話があり、教授会の側からも了承され、学会を開催するサイドからすると、それよりも一人でも多くの会員が出席してもらった方がうれしいとの話がなされた。

野村・山田教授より

夜間大学院・社会人選抜について同窓会員の多くの人たちに入学してもらい大学で研究し学位をとってもらいたい。また10月24日の同窓会の学術講演会の時に野村教授が夜間大学院・社会人選抜について話をしたいとの要請をうけた。

新潟大学歯学部神奈川県同窓会 発会式に出席して

会 長 神 田 正 一

去る7月22日(木) 新潟大学歯学部神奈川県

同窓会発会式に招かれ、出席して参りました。東京地方は前日の大雨も上がり、気温30 を越す猛暑となった一日でした。

同日は又、7月19日にお亡くなりになった小林茂夫名誉教授の告別式が東京田園調布の密蔵院にて行われました。小林先生は、新潟大学歯学部の創設に当たり、初代学部長として多大なご尽力をいただき、我々同窓会にとっても大恩ある先生であられました。同窓会を代表して、告別式に参列し、先生の御冥福をお祈り申し上げて参りました。

夕刻5時半より、横浜の神奈川県歯科医師会館会議室において、神奈川県同窓会発会式が行われ、来賓として出席し、同窓会本部の状況、母校の現況等の話を交え、挨拶させていただきました。神奈川県には70数名の同窓生がおり、開業医・勤務医・大学勤務とそれぞれに活躍されており、かねてから同窓会の設立をということで、この会の発足となりました。会は、まず議長の選出から始まり、会則の審議・承認を経た後、会長に5期生の早川裕先生、監事に1期生の両川弘道先生、5期生の馬場修一先生を選出、続いてその他の役員を選出と進みました。早川会長が、会員相互の親睦と資質の向上、母校及び同窓会の発展に努めるとの目的での会発足の趣旨を述べられ、会員の情報交換を進め、親睦を深めたいとの挨拶がありました。その後、会場を移して懇親会が行われ、40名程の同窓の方々が集まりました。1期生から27期生位まで幅広い層の皆さんの顔が見え、酒を酌み交わしながらいろいろな話で大いに盛り上がっていました。

早川先生はじめ、役員の方々は大変ですが、少しずつ顔を合わせ話をしながら、会の発展を図って行って欲しいと思います。同窓会本部としても、全国各地に支部ができ、それぞれの地区において活躍されることは大変喜ばしく、又、後輩達にとっても心強いものと思います。今後の各支部の発展を、是非とも期待するところです。